

〈ケア〉を考える会 (第116回)

■日時：2018年1月21日(日) 13:30~17:30

■会場：京都市山科区安朱中溝町3-2
山科駅より東 徒歩3~4分の民家
(山添 宅) (安朱保育園 東隣)

■当日の大まかな予定

13:00 ⇒ 有志集合…会場準備等
13:30~ ⇒ 学びの会/対話
15:30頃~ ⇒ 懇親会(笑いヨガ/音楽演奏も)
17:00~17:30 ⇒ 片付け、終了
(その後で、名残惜しコーヒータイム?)

■内容

(1) 報告と対話

「看取り」、「死」と「生」について

報告者：林 道也 (社会福祉士・介護支援専門員)

(2) 新年会…食べながら飲みながら語り合います(持ち込み歓迎)

★新年会参加者で実費(1000円程度)ご負担願います

★申し込み・問い合わせ⇒ 林まで：michi-care@outlook.jp 090-5366-1497

★どなたでも参加できます(初参加歓迎)。先着20名程度



道

2017年12月

母を自宅で看取りました。母は訪問診療や訪問看護・介護など在宅医療介護ネットワークの手厚い医療やケアによって、家族などに見守られ、一月二日、穏やかに旅立ちました。行年九一歳(満八九歳)でした。▼二五年前に手術した乳癌の転移巣が背椎や肺に見つかったのは四年近く前です。抗癌剤は副作用などのために一年程で中止します。背椎癌対応の注射を月一回打つなどで様子を見てきました。背椎を保護する体幹コルセットを二四時間装着するのにも本人には大きな負担でした。今年になって注射の副作用で口(顎)骨に炎症が現れ、食事が摂り難くなりました。食事が減り不足分を栄養飲料などで補うのですが徐々に痩せていき、その体力低下に肺癌が追い打ちをかけたか、▼肺癌の最後は特に苦しいと聞きます。苦痛をいかに取るか、薬をどう使うか、医師や薬剤師は悩まれています。薬が増量された母の意識が薄らぐのにそんな時間はかかりませんでした。呆気ないほど早い最期でした。▼父が亡くなった時、母は三五歳、学校給食調理員として働き、田畑の仕事や、内職などをして子ども三人を育てました。自分のことは二の次にするような人でした。母が大きい声で怒っている姿に接した記憶がありません。僕はそれをよいことに自分勝手に生きて、母に心配ばかりかけました。▼母さん、僕は涙が出ない人間だと長らく思ってきましたが、そうではないことを今度知りました。あなたの息子に生まれて幸でした。

〒710-1301
岡山県倉敷市真備町箭田 5188
090-5366-1497
michi-care@outlook.jp
<https://michi-care.jimdo.com/>

林 道也



道田 林の木

— 母のいない餅つき。母の煮しめが作れない。雑煮で母の味が出せない。地域の付き合いで母に相談できない。……。この年末年始、母の不在をいろいろ思い知ります。不在がその存在を大きくします。一方で、母がそこにいるように感じることもありましたが(「霊」とかではなく)。「いる」ようで「いない」。「いない」けど「いる」。心の中かどこかに「いる」。
(〈道〉2018年1月号より)

わたしたちはじぶんのいのちが他のいのちとの交換のなかにあることを知らされる。

(鷲田清一『老いの空白』P.227)

ひとつひとつの関係において重要なものは、各人が主体的にどのようにしようとしているかではなくて、いつとはなしにお互いが心を開いてしまっているという事態である。

(池上哲司『傍らにあること』P.169)

おたがいの言葉を手がかりに考える時間をもつこと、確かめながらゆっくりと考える時間を共にし、分け合う。「考え」でなく、「考え方」をお互い共有してゆく。

対話には結論はありません。プロセスをゆたかにできなくては。(長田弘『なつかしい時間』P.191)

「〈ケア〉を考える会」ホームページ
<http://care-kyoto.jimdo.com/>

「〈ケア〉を考える会-岡山」
<http://okayama-care.jimdo.com/>